

エルマーと 16ぴきの りゅう



新作!

大人気レパートリー
「エルマーと16ぴきのりゅう」を
新演出版として再創造。
さらに深化した作品を
お届けします!

原作/R.S. ガネット
脚色/川尻泰司
演出/柴崎喜彦
デザインワークス
/石田菜夕子
造形美術/坂上浩士
音楽/富貴晴美
照明/鷺崎淳一郎
振付/ASUKA YAZAWA

“僕たちは決して望んでいないのに、なぜ闘わなければいけないの?”

演出 柴崎喜彦

人の歴史の中で、戦争はなくなることがありません。誰もがそれが間違いだと分かっているながら、恐怖と悲しみしか生まないと知りながら、それでも争いは繰り返されてしまいます。動物島から救い出されたりゅうのポリスは、家族の待つ空色高原へ帰りますが、そこでは人間の侵略により、かつての穏やかな暮らしが脅かされていました。大切なものが失われていく不安は、決して遠い世界の出来事ではありません。

この物語は単なる冒険ではなく、今を生きる私たちへの問いかけを含んでいます。困っている誰かに手を差し伸べる思いやり、未知へ踏み出す勇氣、相手を信じることで生まれる絆、そして力に頼るのではなく、知恵と想像力で道を切り開く大切さ。主人公エルマーは、どんな相手の声にも耳を傾け、分け隔てなく理解しようとしています。その姿勢は、分断が生まれがちな現代において、あらためて大切にしたいものではないでしょうか。

また、この作品には家族を思う気持ちや、帰る場所の大切さも静かに描かれています。争いの先にあるものは何か。本当に守るべきものは何か。人形劇ならではの豊かな想像の世界を通して、子どもも大人もともに感じ、考え、心を通わせる時間となれば幸いです。

動物島に囚われていたりゅうの子ポリスは少年エルマーと友だちの野良猫ミミに助けをもらい、ようやく故郷・空色高原に帰っていった。

しかしそこでは人間たちがりゅうを捕らえようとし、平和な暮らしが脅かされていた。

ポリスは再びエルマーたちに助けを求めか木町へ。

エルマーとミミはりゅうたち家族を救うことができるのか…。

